

平成 28 年度

九州歯科大学

動物実験委員会報告書

目 次

	頁
1 動物実験委員会活動	2
2 講習会の日程および内容	3
3 動物実験規程	4
4 実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則	7
5 実験委員会運営要領	9
6 実験動物飼養保管等に関する細則	1 1
7 平成28年度に審査された動物実験計画	1 4
8 動物実験施設利用による研究業績	1 7
9 動物実験施設利用状況	2 2
1 0 年間運営についての総括	2 4

1 動物実験委員会活動

平成 28 年

- 4 月 4 日：第 1 回委員会、実験計画書 1 件
- 4 月 5 日：第 1 回動物実験施設利用者講習会
- 4 月 20 日：第 2 回委員会、実験計画書 1 件
- 5 月 9 日：第 3 回委員会、実験計画変更願 1 件
- 5 月 9 日：第 4 回委員会、実験計画書 1 件
- 6 月 7 日：第 5 回委員会、実験計画書 1 件
- 6 月 21 日：第 6 回委員会、実験計画書 1 件
- 6 月 29 日：第 7 回委員会、実験計画書 1 件
- 6 月 30 日：第 8 回委員会、実験計画書 1 件
- 7 月 12 日：第 9 回委員会、実験計画書 4 件
- 8 月 8 日：「平成 27 年度九州歯科大学動物実験委員会報告書」作成、併せて福岡県、福岡県立大学、福岡女子大学へ CD を送付
- 9 月 21 日：第 10 回委員会、実験計画書 1 件
- 9 月 21 日：第 11 回委員会、実験計画書 1 件
- 9 月 29 日：第 12 回委員会、実験計画変更願 1 件
- 10 月 3 日：第 13 回委員会、実験計画書 1 件
- 10 月 19 日：第 2 回動物実験施設利用者講習会
- 11 月 1 日：第 14 回委員会、実験計画書 1 件
- 11 月 4 日：第 15 回委員会、実験計画書 1 件、実験計画変更願 1 件
- 11 月 16 日：第 16 回委員会、実験計画書 1 件
- 12 月 2 日：第 17 回委員会、実験計画書 1 件
- 12 月 8 日：第 18 回委員会、実験計画書 2 件
- 12 月 9 日：第 19 回委員会、実験計画書 1 件

平成 29 年

- 1 月 13 日：第 20 回委員会、実験計画書 1 件
- 1 月 20 日：動物実験施設利用者（研究室配属学生）講習会
- 1 月 31 日：第 21 回委員会、実験計画書 1 件
- 2 月 1 日：第 22 回委員会、実験計画書 2 件
- 2 月 8 日：第 23 回委員会、実験計画書 1 件、実験計画変更願 1 件
- 2 月 10 日：第 24 回委員会、実験計画書 1 件
- 3 月 6 日：第 25 回委員会、実験計画書 1 件
- 3 月 29 日：第 26 回委員会、実験計画書 2 件

2 講習会の日程および内容

2-1 講習会日程

参加人数・・・35名（平成28年4月5日）
本館6階611講義室 午後5時～6時
入館指導・・・7月28日
入館指導・・・7月29日

参加人数・・・8名（平成28年10月19日）
本館6階611講義室 午後5時～6時
入館指導・・・11月2日

参加人数・・・5名（研究室配属学生）（平成29年1月20日）
本館3階311講義室 午後5時00分～5時30分
教員と入館するため、入館指導無し

2-2 講習会内容（上記3講習会ともに基本的に同一内容）

動物実験委員会より

- ・公立大学法人九州歯科大学動物実験規程について
- ・動物実験計画書作成の手引き
- ・学内ホームページ利用について
- ・動物愛護の観点から

動物実験施設より

- ・動物実験施設の入館方法について
- ・動物実験施設の利用について
- ・動物実験施設の現状と今後について
- ・入館指導のお知らせ
- ・飼育スタッフからのお願い

画像診断学より

- ・放射線防護研修

口腔保健学科より

- ・実験動物の感染症について
- ・人畜共通感染症について

配布資料

- ・公立大学法人九州歯科大学動物実験規程
- ・動物実験計画書
- ・動物実験計画書記載内容チェック表
- ・痛み・苦痛・安楽死の評価と基準
- ・九州歯科大学動物実験施設利用心得
- ・放射線防護研修資料
- ・飼育スタッフからのお願い
- ・施設提出書類の書き方

小テスト 講習内容の確認の為、小テストを実施した。

3 動物実験規程

公立大学法人九州歯科大学動物実験規程

平成19年3月28日
法人規程第1号

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、「動物の愛護及び管理に関する法律（昭和48年法律第105号）」（以下「法」という。）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（平成18年環境省告示第88号）」（以下「飼養保管基準」という。）、及び文部科学省が策定した「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（平成18年6月）」（以下「基本指針」という。）を踏まえ、日本学術会議が作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」を参考に、科学的観点、動物愛護の観点及び環境保全の観点並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、公立大学法人九州歯科大学（以下「本学」という。）における動物実験等の適正な実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(基本原則)

第2条 動物実験等については、法、飼養保管基準、基本指針、内閣府告示の「動物の処分方法に関する指針」、その他の法令等に定めがあるもののほか、この規程の定めるところによるものとする。

- 2 動物実験等の実施に当たっては、法及び飼養保管基準に即し、動物実験等の原則である代替法の利用（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限り動物を供する方法に代わり得るものを利用することをいう。）、使用数の削減（科学上の利用の目的を達することができる範囲において、できる限りその利用に供される動物の数を少なくすること等により実験動物を適切に利用することに配慮することをいう。）及び苦痛の軽減（科学上の利用に必要な限度において、できる限り動物に苦痛を与えない方法によってしなければならないことをいう。）の3R（Replacement, Reduction, Refinement）に基づき、適正に実施しなければならない。

(定義)

第3条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 動物実験等 動物を教育、試験研究又は生物学的製剤の製造の用その他の科学上の利用に供することをいう。
 - (2) 実験動物 動物実験等の利用に供するため、施設等で飼養または保管している哺乳類、鳥類又は爬虫類に属する動物（施設等に導入するために輸送中のものを含む。）をいう。
 - (3) 動物実験計画 動物実験等の実施に関する計画をいう。
 - (4) 動物実験実施者 学長の許可を受け、動物実験等を実施する者をいう。
 - (5) 動物実験責任者 動物実験実施者のうち、学長の許可を受け、動物実験等の実施に関する業務を統括する者をいう。当該実験における責任者である。
- 2 上記に掲げるもの以外の用語の意義は、「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」で使用する用語の例による。

第2章 学長の責務

(責務)

第4条 学長は、本学における動物実験等の実施に関する最終的な責任を有する。

2 学長は、動物実験責任者から提出された動物実験計画について、動物実験委員会の審査を経て承認を与え、又は与えない。

3 学長は、動物実験等の終了の後、動物実験計画の履行結果について報告を受け、必要に応じ適正な動物実験等の実施のための改善措置を執る。

第3章 動物実験委員会

(動物実験委員会の設置)

第5条 学長から諮問を受け、次に掲げる業務を実施する動物実験委員会を設置する。

- (1) 動物実験計画が指針等及び本規程に適合していることの審議
- (2) 動物実験計画の実施の結果に関する審議
- (3) その他動物実験等の適正な実施に関し学長より諮問される事項の審議

2 動物実験委員会は、次に掲げる委員で組織し、学長が委員を指名する。

- (1) 動物実験等に関して優れた識見を有する者 若干名
- (2) 実験動物に関して優れた識見を有する者 若干名
- (3) その他学識経験を有する者 若干名

3 動物実験委員会の運営については、別に定める。

第4章 動物実験施設

(動物実験施設の設置)

第6条 大学における歯学・医学研究の推進のために、歯学・医学に関する動物実験の共同利用の場として、動物実験施設を置き、その設置承認手続き等については、別に定める。

2 動物実験施設における実験動物の飼養及び保管は、飼養保管基準を踏まえ、科学的観点及び動物愛護の観点から適切に実施する。

3 動物実験施設においては、安全管理に注意した実験動物の取扱いを行う。

4 動物実験施設の運営については、別途定める。

(施設長)

第7条 動物実験施設の業務を統括するため施設長を置き、学長が指名する。

(動物実験施設運営部会)

第8条 動物実験施設等の円滑な運営に資するために、動物実験施設運営部会を設置する。

2 動物実験施設運営部会の構成及び運営については、別に定める。

第5章 動物実験等の実施その他

(科学的合理性の確保)

第9条 動物実験責任者は、動物実験等により取得されるデータの信頼性を確保する観点から、動物実験計画を立案し、動物実験等を適正に実施する。

2 この場合において必要な事項は別に定める。

(教育訓練等の実施)

第10条 学長は、動物実験実施者等に対し、適正な動物実験等の実施並びに実験動物の適切な飼養及び保管を行うために必要な基礎知識の修得を目的とした教育訓練の実施その他動物実験実施者の資質向上を図るために必要な措置を講じる。

(基本指針への適合性に関する自己点検・評価及び検証)

第11条 学長は、動物実験等の実施に関する透明性を確保するため、定期的に、本学において実施された動物実験等の基本指針への適合性に関し、自己点検・評価、及び検証を行うよう努めるものとする。

(情報公開)

第12条 学長は、本学における動物実験等に関する情報（動物実験等に関する規程，実験動物の飼養保管状況，自己点検・評価，検証の結果等）について，年報等において公表する。

第6章 補則

（準用）

第13条 第3条第2号に定める実験動物以外の動物を使用する動物実験等については，飼養保管基準の趣旨に沿って行うよう努める。

2 本学内における動物実験施設以外の施設において動物実験等を実施する場合は，動物実験施設における基準を準用し実験動物の飼養，保管及び取扱いの安全管理を行う。

この場合の設置承認手続き等については，別に定める。

（罰則）

第14条 学長は，本規程に違反した者の動物実験を直ちに中止させ，一定期間動物実験の許可を与えないことができる。

2 罰則の適応に関して，学長は動物実験委員会の助言を求めることができる。

（雑則）

第15条 この規程に定めるもののほか必要な事項は，学長が別に定める。

附 則

この規程は，平成19年4月1日より施行する。

附 則

この規程は，平成22年2月1日より施行する。

4 実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則

公立大学法人九州歯科大学動物実験計画の承認・実施及び報告等に関する細則

(目的)

第1条 この規則は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（平成19年法人規程第1号、以下「規程」という。）第9条に基づき、動物実験計画の立案、審査及び動物実験報告等の実施に関して必要な事項を定める。

(用語)

第2条 この規則による用語の意義は、規程で使用する用語の例による。

(動物実験計画の立案)

第3条 動物実験責任者は、次に掲げる事項を記載した動物実験計画書（様式第1号）を学長に提出しなければならない。

- (1) 研究題目
- (2) 実験計画の種類
- (3) 研究目的
- (4) 共同研究者がいるときは、その氏名、分野名及び連絡先
- (5) 実験期間
- (6) 使用動物種
- (7) 動物に加える処置の内容
- (8) 飼育場所及び実験室
- (9) 動物福祉に係る事項
- (10) 動物へ危険物を使用する場合は、その内容
- (11) その他の必要事項

(動物実験計画の審査)

第4条 学長は、動物実験責任者から動物実験計画書を受理したときは、動物実験委員会に審査を付議しなければならない。

- 2 動物実験委員会は、前項の計画書を受理したときは、審査して動物実験計画書審査結果報告書（様式第2号）を学長に交付するものとする。
- 3 学長は、前項の報告書を受理したときは、当該報告書により動物実験計画承認の可否を決定のうえ動物実験承認（不承認）通知書（様式第3号）を動物実験責任者に交付するものとする。

(動物実験責任者)

第5条 動物実験責任者は、前条第3項による承認を受けた後に実験を行わなければならない。

- 2 動物実験責任者は、第3条（1）から（11）に掲げる事項を変更する場合、又は前条第3項の通知を受けた日の翌日から起算して2年を経過したものは、同一の実験を行う場合であっても、第1号様式を学長に提出しなければならない。
- 3 動物実験責任者は、前項以外の軽微な変更等を行うときは、動物実験計画変更願（様式第4号）を学長に提出しなければならない。
- 4 動物実験責任者が変更になったときは、様式第1号を学長に提出しなければならない。
- 5 前3項の届出書等の審査においては、第4条を準用する。

6 動物実験責任者は、動物実験が終了又は中止したときは、遅滞なく動物実験結果報告書（様式第5号）を学長に提出しなければならない。

（雑則）

第6条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、動物実験委員会が別に定めるものとする。

附 則

（施行期日）

この規則は、平成21年12月1日より施行する。

5 実験委員会運営要領

九州歯科大学動物実験委員会運営要領

(目的)

第1条 この要領は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（平成19年法人規程第1号。以下「動物実験規程」という。）第5条第3項の規定に基づき、動物実験委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。

(委員会の役割)

第2条 委員会は、次の事項を審議又は調査し、学長に報告又は助言する。

- (1) 動物実験計画が動物実験規程に適合していることの審議
- (2) 動物実験責任者及び動物実験実施者の承認に関すること
- (3) 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること
- (4) 動物実験施設及び実験動物の飼養保管状況に関すること
- (5) 動物実験及び実験動物の適正な取扱い並びに関係法令等に関する教育訓練の内容又は体制に関すること
- (6) 自己点検・評価に関すること
- (7) 動物実験等に関する情報の公表に関すること
- (8) その他、動物実験等の適正な実施のための必要事項に関すること

(委員長等)

第3条 委員会は、動物実験規程第5条第2項の規定に基づき、学長から指名を受けた委員で構成される。

- 2 委員長は、大学院研究科長をもって充てる。
- 3 委員長は、あらかじめ委員のなかから副委員長1名を指名する。
- 4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員となった場合、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の定足数および議決方法)

第5条 委員会は委員の過半数の出席をもって成立する。委員会の議事は出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め説明又は意見を聴取することができる。

(守秘義務)

第7条 委員は、動物実験計画に関して知り得た情報を他に漏洩してはならない。

(委員の中立性)

第8条 委員は、自ら動物実験責任者となる動物実験計画の審査に加わることができない。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、学務部が行う。

(雑則)

第10条 委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附 則

(施行期日等)

1 この要領は、平成19年7月2日から施行し、同年4月1日から適用する。

(委員にかかる経過措置)

2 この要領の施行後、最初に指名された委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成20年3月31日までとする。

附 則

この要領は、平成22年2月1日から施行する。

6 公立大学法人九州歯科大学実験動物飼養保管等に関する細則

公立大学法人九州歯科大学実験動物飼養保管等に関する細則

(目的)

第1条 この細則は、公立大学法人九州歯科大学動物実験規程（以下「規程」という。）第6条第1項並びに第13条第2項に基づき、実験動物の飼養保管施設等に係る設置承認手続き等に関して必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この細則における用語の意義は、規程及び「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（平成18年6月）」で使用する用語の例による。

(飼養保管施設)

第3条 実験動物の飼養保管は、動物実験施設、小動物観察室1（本館10階）及び小動物観察室2（本館11階）の飼養保管施設で行う。

(小動物観察室における飼養保管の要件)

第4条 小動物観察室1又は小動物観察室2において飼養保管を行うときは、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) マウス及びラットの飼養保管に限ること。
- (2) これらの繁殖を行わないこと。
- (3) 検収日から起算して、3ヶ月を越える期間の飼養保管をしないこと。

(管理者等)

第5条 動物実験施設、小動物観察室1又は小動物観察室2に管理者をおく。

- 2 管理者は、実験動物管理者をおくことができる。
- 3 実験動物管理者は、管理者を補佐し、実験動物の管理を担当する。
- 4 管理者は、実験動物を飼養又は保管するために飼養者をおかななければならない。
- 5 管理者等は、実験動物の輸送に当たり、飼養保管基準を遵守し、実験動物の健康及び安全の確保、人への危害防止等に努めなければならない。

(飼養保管施設の要件)

第6条 動物実験等のために設置する飼養保管施設の構造・設備は、次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 飼育室は、常時ドアで仕切られた動物実験専用の個室であり、動物が逸走しない構造と強度を有すること。
- (2) 窓を開けることなく常に換気し、適切な温度、湿度及び明るさを保つこと。
- (3) 床、内壁等は、清掃・消毒が容易な構造であり、動物種や飼養保管数に応じた衛生設備を有すること。
- (4) 飼養保管数や飼養する動物の習性等に応じた構造の飼育設備・ケージ等を備えること。
- (5) 遺伝子組み換え動物の飼育においては、「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令（平成16年文部科学省・環境省令第1号）」に定められた表示及び逸走防止対策を講じること。

- (6) 臭気・騒音・動物残渣（死体，汚物，汚物の付着した床敷等）等による周辺環境への悪影響を防止する設備が備えられていること。
- (7) その他物理的・化学的に危険な材料・設備，病原微生物を取り扱う実験を行う場合の飼育設備については，専門家等の指示に従い，必要な措置を講じること。

（実験室）

第7条 学内において，第3条に定める飼養保管施設以外の施設（以下「実験室」という。）においても一時的に実験動物を保管し，実験を行うことができる。ただし，病院棟を除くものとする。

- 2 実験室は，動物実験責任者の属する分野の長（分野の長を代理する者を含む。）が管理者としての責任を負う。複数の分野が使用する場合は，その代表者が管理者となる。
- 3 実験室では，実験動物の搬入後48時間を超える保管をしてはならない。
- 4 動物実験実施者は，実験動物を輸送するに当たり，飼養保管基準を遵守し，第5条5項に掲げる事項を踏まえなければならない。

（実験室の要件）

第8条 実験室の構造・設備は，次に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 実験動物が逸走しない構造及び強度を有し，並びに実験動物が逸走しても捕獲しやすい環境が保たれていること。
- (2) 排泄物，血液等による汚染に対して清掃や消毒が容易であること。
- (3) 常に清潔な状態を保ち，臭気，騒音，廃棄物等による周辺環境への悪影響を防止する措置が講じられていること。

（設置承認申請書）

第9条 施設等の管理者が，飼養保管施設をあらたに設置しようとするときは，飼養保管施設設置承認申請書（様式第1号）を学長に提出しなければならない。

- 2 分野長等が実験室を設置しようとするときは，実験室設置承認申請書（様式第2号）を学長に提出しなければならない。

（設置承認手続）

第10条 学長は，前条の申請書が提出されたときは，動物実験委員会へ審査を付議することができる。

- 2 動物実験委員会は，前項の付議がなされたときは，書類審査及び実地調査を実施のうえ，様式第1号又は第2号に意見を記載し，学長に提出しなければならない。
- 3 学長は，前項の動物実験委員会の意見を受けたときは，当該意見を参考にして飼養保管施設（実験室）設置承認の可否を決定のうえ，様式第1号又は第2号を施設等の管理者に交付するものとする。

（廃止届）

第11条 施設等の管理者は，飼養保管施設又は実験室を廃止しようとするときは，飼養保管施設（実験室）廃止届（様式第3号）を学長に提出しなければならない。

（定期的検査）

第12条 動物実験委員会は，飼養保管施設及び実験室が適切に管理されているかを定期的に検査し，その結果を学長に報告しなければならない。

- 2 学長は，前項の検査の結果，不適切な管理実態が明らかとなったときは，施設等の管理者に必要な応じて指導・勧告をしなければならない。

- 3 施設等の管理者は、前項の指導・勧告があったときは、当該問題点の改善を行わなければならない。

(雑則)

第13条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は学長が別に定めるものとする。

附 則

- 1 第3条に掲げる飼養保管施設については、第9条1項の規定にかかわらず、飼養保管施設設置承認申請書(様式第1号)を学長へ提出し、その承認を受けることにより、この細則の施行前と同様に施設運営をすることができる。
- 2 この細則は、平成22年2月1日から施行する。

7 平成 28 年度に審査された動物実験計画

7-1 動物実験計画書の申請についてのまとめ

申請件数（変更願を含む）・・・合計 34 件

平成 28 年度

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2	2	4	4	0	3	1	4	4	2	5	3	34

再審査件数・・合計 32 件（94%）

再審査に際しての動物実験委員会からの主たる指摘事項

再審査に際しての動物実験委員会からの主たる指摘事項

研究計画・内容の説明不足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30 件（88%）

薬剤名，投与量，投与経路の記載不備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3 件（9%）

使用動物数の軽減・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5 件（15%）

記入漏れ・・1 件（3%）

略語の意味が不明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 件（6%）

動物実験施設利用未登録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0 件（0%）

不適切な安楽死・安楽死についての記載不備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0 件（0%）

麻薬研究者免許等についての記載不備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0 件（0%）

研究内容と苦痛軽減方法等の記載の整合性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8 件（24%）

苦痛の具体的な内容について記載不備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7 件（21%）

イヌ等の動物を使用する理由の記載不備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0 件（0%）

遺伝子組換え生物等委員会への未申請・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・0 件（0%）

承認された件数・・・合計 31 件（91%）

取り下げた件数・・・合計 2 件（6%）

却下された件数・・・合計 1 件（3%）

7-2 平成28年度に審査された動物実験計画書

許可番号	許可日	区分	研究題目
16-001	2016. 4. 5	新規	顎顔面形態形成過程における遺伝-環境相互作用機構の解明
16-002	2016. 4. 7	新規	歯、エナメル芽細胞特異的p65欠損マウスの作製
16-003	2016. 4. 13	新規	加圧下でのスワブによるラット頬粘膜における組織損傷後の修復過程の解明
16-004	2016. 4. 14	新規	各種口内炎モデルにおける活性酸素による疼痛発症機構
16-005	2016. 4. 14	新規	矯正ワイヤー誘発口内炎モデルにおけるプロスタノイドによる疼痛発症機構
16-006	2016. 4. 14	新規	口腔粘膜炎モデルにおけるエンドセリンによる疼痛発症機構
16-007	2016. 4. 21	新規	口腔乾燥がもたらす口腔内感覚への影響
16-008	2016. 5. 17	変更	加圧下でのスワブによるラット頬粘膜における組織損傷後の修復過程の解明
16-009	2016. 5. 18	新規	薬剤関連性顎骨壊死 (medication-related osteonecrosis of the jaw: MRONJ) に対するテリパラチドを用いた治療効果の検討
16-010	2016. 6. 30	新規	軟骨分化によるリゾリン脂質アシル転移酵素の役割に関する研究
16-011	2016. 7. 8	新規	副腎皮質ホルモン製剤が唾液腺に及ぼす影響の解明
16-012	2016. 7. 14	新規	Activin-Aによる破骨細胞分化誘導機構の解明
16-013	2016. 7. 14	新規	老化促進因子としての補体C1qと骨・エネルギー代謝との関連性を調べる研究
16-014	2016. 7. 29	新規	口腔扁平上皮癌または歯肉悪性黒色腫の顎骨浸潤におけるBMP/Smadシグナルの役割
16-015	2016. 7. 29	新規	口腔扁平上皮癌の顎骨浸潤におけるp130Casの役割
16-016	2016. 9. 8	新規	ラット三叉神経節ニューロンに対する口内炎疼痛関連分子の影響
16-017	2016. 10. 4	新規	基礎生命科学実習Ⅱにおけるマウスの解剖
16-018	2016. 10. 5	新規	不動性萎縮骨格筋のサテライト細胞におけるNF- κ Bシグナルの役割
16-019	2016. 10. 7	変更	抗体修飾バブルリポソーム、ソノポレーションを活用したdrug delivery systemの開発
16-020	2016. 10. 19	新規	矯正ワイヤー誘発口内炎モデルにおけるエラスターゼによる疼痛発症機構
16-021	2016. 10. 24	新規	加圧下でのスワブによるラット頬粘膜の組織損傷に対する抵抗性
16-022	2016. 11. 17	新規	アメロブラスチンによる破骨細胞分化抑制メカニズムの解明
	不承認	変更	新規覆髄材の生体親和性および象牙質形成誘導能についての検討

16-024	2016. 11. 18	新規	新規バイオガラス配合根管充填用シーラーの開発と生体親和性および硬組織形成誘導能の確認
	取り下げ	新規	窒素含有ビスフォスフォネートによる顎骨壊死のテトラサイクリン系薬剤骨蛍光標識法による新規治療法の開発
16-025	2016. 12. 1	新規	抗体修飾マイクロバブル、ソノポレーションを活用したdrug delivery systemの開発 ～抗EGFR抗体修飾マイクロバブルの抗腫瘍効果検証～
16-026	2016. 12. 21	新規	新規硬化時間短縮型生体活性ガラス覆髓材の生体親和性と象牙質形成誘導能の検討
16-027	2016. 12. 26	新規	ラット実験的歯周組織欠損モデルにおける共培養歯根膜細胞スフェロイドを用いた歯周組織再生の評価
16-028	2017. 1. 4	新規	Mash1欠損による味蕾3型細胞分化への影響の検索
16-029	2017. 1. 4	新規	Mash1 conditional knockoutによる味蕾3型細胞の機能検索
	取り下げ	新規	口内炎モデルラットの疼痛発症メカニズムにおけるエンドセリンの関与
16-030	2017. 2. 20	新規	生後1日齢マウス頭蓋冠からの骨芽細胞の調製
16-031	2017. 4. 1	新規	Bif-1による骨代謝調節機構の解明
16-032	2017. 2. 23	変更	Apert症候群モデルマウスを用いた上皮間葉相互作用の検索
16-033	2017. 2. 24	新規	ラット口腔粘膜および皮膚組織損傷における炎症
16-034	2017. 2. 24	新規	口内炎疼痛発症機構におけるエンドセリンの役割
16-035	2017. 4. 1	新規	Apert症候群モデルマウスを用いた上皮間葉相互作用の検索（その2）
16-036	2017. 3. 27	新規	Smad Binding Domain(SBD)ペプチドのBMP誘導性異所性骨化への影響

8 動物実験施設利用による研究業績

論文等

- 1) Fujita, Y. and Maki K.: High-fat diet-induced obesity triggers alveolar bone loss and spontaneous periodontal disease in growing mice. *BMC Obes.* 3: 1, 2016.
- 2) Fujita, Y., Goto, S., Ichikawa, M., Hamaguchi, A. and Maki, K.: Effect of dietary calcium deficiency and altered diet hardness on the jawbone growth: a micro-CT and bone histomorphometric study in rats. *Arch. Oral. Biol.* 72: 200-210, 2016.
- 3) Hitomi, S., Ono, K., Terawaki, K., Matsumoto, C., Mizuno, K., Yamaguchi, K., Imai, R., Omiya, Y., Hattori, T., Kase, Y. and Inenaga, K.: [6]-gingerol and [6]-shogaol, active ingredients of the traditional Japanese medicine hangeshashinto, relief oral ulcerative mucositis-induced pain via action on Na⁺ channels. *Pharmacol. Res.* 117: 288-302, 2017.
- 4) Yamaguchi, K., Ono, K., Hitomi, S., Ito, M., Nodai, T., Goto, T., Harano, N., Watanabe, S., Inoue, H., Miyano, K., Uezono, Y., Matoba, M. and Inenaga, K.: Distinct TRPV1- and TRPA1-based mechanisms underlying enhancement of oral ulcerative mucositis-induced pain by 5-fluorouracil. *Pain.* 157(5): 1004-1020, 2016.
- 5) Hirata-Tsuchiya S, Fukushima H, Kokabu S, Kitamura C and Jimi E: Fine-tuning between BMP and NF-κB pathways regulates osteoblastic bone formation. *J. Oral Biosci.* 58: 73–77, 2016.
- 6) Kokabu S, Lowery JW and Jimi E: Cell Fate and Differentiation of Bone Marrow Mesenchymal Stem Cells. *Stem Cells Int.* Article ID 3753581, 2016.
- 7) Kokabu S, Lowery JW, Toyono T, Sato T and Yoda T: On the Emerging Role of the Taste Receptor Type 1 (T1R) Family of Nutrient-Sensors in the Musculoskeletal System. *Molecules.* 22(3), 2017.

学会発表等

- 1) 藤田 優子, 後藤 翔太, 市川 舞佳, 濱口 絢子, 牧 憲司: 咀嚼力低下による萎縮を伴ったラット咬筋におけるmicroRNA 発現解析と標的遺伝子の探索. 第34回日本小児歯科学会九州地方会大会, 宮崎 (10月), 2016.
- 2) 諸富 孝彦, 花田 可緒理, 鷺尾 絢子, 吉居 慎二, 市丸-末松 美希, 永吉 雅人, 西野 宇信, 北村 知昭: 根尖歯周組織に対する新規バイオガラス配合根管充填用シーラーの生体親和性. 第145回日本歯科保存学会2016年度秋季学術大会, 松本市 (10月), 2016.
- 3) 花田 可緒理, 諸富 孝彦, 鷺尾 絢子, 北村 知昭: 直接覆髄材としてのバイオガラス配合セメントの可能性. 第145回日本歯科保存学会2016年度秋季学術大会, 松本市 (10月), 2016.
- 4) 人見 涼露, 小野 堅太郎, 野代 知孝, 伊藤 美紗, 正木 千尋, 細川 隆司, 稲永 清敏:

酢酸誘発口内炎モデルラットにおける疼痛関連因子の変化. 第 58 回歯科基礎医学会, 北海道 (8 月), 2016.

5) 伊藤 美紗, 小野 堅太郎, 人見 涼露, 野代 知孝, 郡司 掛香織, 黒石 加代子, 川元 龍夫, 稲永 清敏: 矯正ワイヤー誘発新規口内炎モデルにおける疼痛発症メカニズム. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

6) 野代 知孝, 人見 涼露, 小野 堅太郎, 伊藤 美紗, 正木 千尋, 細川 隆司, 稲永 清敏: 酢酸誘発口内炎モデルラットに発症する口腔内疼痛に対するエンドセリン 1 の関与. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

7) 野代 知孝, 小野 堅太郎, 人見 涼露, 伊藤 美紗, 正木 千尋, 細川 隆司, 稲永 清敏: 酢酸誘発口内炎モデルラットにおける病態と遺伝子変化. 第 76 回九州歯科学会総会, 北九州 (5 月), 2016.

8) 伊藤 美紗, 小野 堅太郎, 人見 涼露, 山口 喜一郎, 野代 知孝, 郡司 掛香織, 黒石 加代子, 川元 龍夫, 稲永清敏: 矯正ワイヤーによる新規口内炎モデルラットの開発. 第 76 回九州歯科学会総会, 北九州 (5 月), 2016.

9) 小野 堅太郎, 山口 喜一郎, 人見 涼露, 野代 知孝, 自見 英治郎, 稲永 清敏: 口内炎疼痛に対する抗ガン薬シスプラチンの影響. 第 76 回九州歯科学会総会, 北九州 (5 月), 2016.

10) Ito, M., Ono, K., Hitomi, S., Yamaguchi, K., Nodai, T., Gunjigake, K., Kuroishi, K., Kawwamoto T. and Inenaga, K.: A new preclinical pain model of orthodontic wire appliance-induced oral ulcer. . ASIA-PACIFIC CONFERENCE. Kitakyushu (May), 2016.

11) Nodai, T., Ono, K., Hitomi, S., Ito, M., Masaki, C., Hosokawa, R. and Inenaga, K.: The change of pain-associated mediators and genes in acetic acid-induced oral ulcerative mucositis model. Asia-Pacific Conference. ASIA-PACIFIC CONFERENCE. Kitakyushu (May), 2016.

12) 宗政 翔, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 楠田 優一郎, 宮城 勇大, 柄 慎太郎, 正木 千尋, 中本 哲自, 細川 隆司: 糖尿病による口腔乾燥症発症メカニズムの解明. 第 125 回公益社団法人日本補綴歯科学会学術大会, 金沢 (7 月), 2016.

13) 宗政 翔, 近藤 祐介, 向坊 太郎, 楠田 優一郎, 宮城 勇大, 柄 慎太郎, 正木 千尋, 中本 哲自, 細川 隆司: 2 型糖尿病モデルマウスにおける唾液分泌能の解析. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会・総会, 札幌 (8 月), 2016.

14) 楠田 優一郎, 近藤 祐介, 宗政 翔, 宮城 勇大, 丸山 俊正, 向坊 太郎, 正木 千尋, 細川 隆司: 副腎皮質ステロイド治療がマウス顎下腺に及ぼす効果. 第 34 回公益社団法人日本口腔インプラント学会九州支部学術大会, 熊本 (1 月), 2017.

15) Munemasa, T., Mukaibo, T., Kondo, Y., Kusuda, Y., Miyagi, Y., Tsuka, S., Masaki, C. and Hosokawa, R.: Diminished calcium release from endoplasmic reticulum induces salivary dysfunction in diabetic mouse model, ASIA-PACIFIC CONFERENCE. Kitakyushu (May), 2016.

16) Munemasa, T., Mukaibo, T., Kondo, Y., Kusuda, Y., Miyagi, Y., Tsuka, S., Masaki, C. and Hosokawa, R.: Diminished $[Ca^{2+}]_i$ Increase Induces Salivary Dysfunction in Diabetic Mouse Model, The 94th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research. Seoul, Korea (June), 2016.

17) Kusuda, Y., Kondo, Y., Munemasa, T., Miyagi, Y., Tsuka, S., Mukaibo, T., Masaki, C. and Hosokawa, R.: Corticosteroid Treatment Affects Mouse Submandibular Gland Function, The 95th General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research. San Francisco, USA (March), 2017.

18) 松山 佳永, 川元 龍夫, 瀬田 祐司: マウス味蕾における膜表面分子の発現. 第 76 回九州歯科学会総会学術大会, 北九州(5月), 2016.

19) 高木 拓樹, 川元 龍夫, 瀬田祐司: Mash1 による味蕾細胞分化制御. 第 76 回九州歯科学会総会学術大会, 北九州(5月), 2016.

20) Ueda M., Kuroishi N. K., Gunjigake K.K., Ikeda E., and Kawamoto T.: Expression of asporin and *SOST/sclerostin* in compressed periodontal ligament cells. 94th General Session & Exhibition of the IADR, 3rd Meeting of the IADR Asia Pacific Region. Seoul (June), 2016.

21) Ito M., Ono K., Hitomi S., Yamaguchi K., Nodai T., Gunjigake K., Kuroishi K., Kawamoto T. and Inenaga K.: A new preclinical pain model of oral ulcer by orthodontic wire appliance. 16th World Congress on Pain. Kanagawa (September), 2016.

22) 伊藤 美紗, 小野 堅太郎, 人見 涼露, 郡司 掛香織, 黒石 加代子, 川元 龍夫: 矯正ワイヤー誘発口内炎における疼痛発症メカニズム. 第 75 回日本矯正歯科学会大会, 徳島(11月), 2016.

23) 松山 佳永, 川元 龍夫, 瀬田 祐司: マウス味蕾における膜表面分子の発現. 第 75 回日本矯正歯科学会大会, 徳島(11月), 2016.

24) 高木 拓樹, 川元 龍夫, 瀬田 祐司: Cre-loxP システムを利用した味蕾Ⅲ型細胞分化における Mash1 の機能解析. 第 75 回日本矯正歯科学会大会, 徳島(11月), 2016.

25) 上田 雅恵, 黒石 加代子, 郡司 掛香織, 池田 恵理奈, 川元 龍夫: 圧迫した歯根膜線維芽細胞における Asporin と *SOST/sclerostin* の発現変化. 第 75 回日本矯正歯科学会大会, 徳島(11月), 2016.

26) 松山 佳永, 川元 龍夫, 瀬田祐司: マウス味蕾における膜表面分子の発現. 第 58 回日本顕微鏡学会九州支部学術講演会, 福岡(12月), 2016.

27) 高木 拓樹, 川元 龍夫, 瀬田 祐司: Cre-loxP システムを利用した味蕾Ⅲ型細胞分化

における Mash1 の機能解析. 第 58 回日本顕微鏡学会九州支部学術講演会, 福岡(12 月), 2016.

28) Ito M., Ono K., Hitomi S., and Kawamoto T.: TRPV1- and TRPA1-mediated spontaneous pain and TRPV4-mediated mechanical pain in orthodontic wire-induced oral mucositis. The 29th TAO Annual Meeting. Taiwan (December), 2016.

29) Ito M., Ono K., Hitomi S., Gunjigake K., Kuroishi K., Kawamoto T.: Patho-physiological pain mechanism following oral mucosal trauma. 地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト事業報告会, 福岡(1 月), 2017.

30) Matsuyama K, Seta Y, Kataoka S, Nakatomi M, Toyono T, Kawamoto T.: Expression of N-cadherin, cell surface molecules, in mouse taste buds. 地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト事業報告会, 福岡(1 月), 2017.

31) 高木 拓樹, 川元 龍夫, 瀬田 祐司. Cre-loxP システムを利用した味蕾 III 型細胞分化における Mash 1 の機能解析. 第 12 回九州矯正歯科学会大会, 宮崎(3 月), 2017.

32) 松山 佳永, 川元 龍夫, 瀬田祐司: マウス味蕾における膜表面分子の発現. 第 12 回九州矯正歯科学会大会, 宮崎(3 月), 2017.

33) 伊藤 美紗, 小野 堅太郎, 人見 涼露, 郡司 掛香織, 黒石 加代子, 川元 龍夫: 機械的外傷後の口腔粘膜疼痛メカニズム. 第 12 回九州矯正歯科学会大会, 宮崎(3 月), 2017.

34) 山地 晃二郎, 森田 淳平, 郡司 掛香織, 志賀 百年, 川元 龍夫: 顎下腺における Apert 症候群モデルマウスの病態解析. 第 12 回九州矯正歯科学会大会, 宮崎(3 月), 2017.

35) 池田 浩之, 吉賀 大午, 鶴島 弘基, 坂口 修, 田中 純平, 梶田 倫功, 笹栗 正明 吉岡 泉, 富永 和宏: BRONJ モデルラットにおける Teriparatide を用いた治療効果に関する研究. 第 61 回日本口腔外科学会総会, 幕張(11 月), 2016.

36) 古株 彰一郎, 中富 千尋, 松原 琢磨, 人見 涼露, 自見 英治郎: NF- κ B シグナルは除神経による骨格筋萎縮初期に亢進する. 第 76 回九州歯科学会総会学術大会, 北九州(5 月), 2016.

37) 松原 琢磨, 中富 千尋, 古株 彰一郎, 浦田 真梨子, 自見 英治郎: 新規アクチン結合分子 PPP1r18 による破骨細胞のアクチン細胞骨格制御. 第 76 回九州歯科学会総会学術大会, 北九州(5 月), 2016.

38) 中富 千尋, 古株 彰一郎, 中富 満城, 松原 琢磨, 浦田 真理子, 自見 英治郎: 軟骨内骨化における NF- κ B 非古典的経路の機能解明. 第 76 回九州歯科学会総会学術大会, 北九州(5 月), 2016.

39) 松原 琢磨, 中富 千尋, 古株 彰一郎, 山本 照子, 自見 英治郎: 破骨細胞のアクチ

ンリング形成を制御する新規アクチン結合分子 PPP1r18 第 34 回日本骨代謝学会学術大会, 大阪 (7 月), 2016.

40) 中富 千尋, 古株 彰一郎, 松原 琢磨, 自見 英治郎: 軟骨内骨化における NF- κ B 非古典的経路の役割. 第 34 回日本骨代謝学会学術大会, 大阪 (7 月), 2016.

41) 古株 彰一郎, 中富 千尋, 松原 琢磨, 自見 英治郎: NF- κ B シグナル亢進と除神経性骨格筋萎縮. 第 34 回日本骨代謝学会学術大会, 大阪 (7 月), 2016.

42) 中富 千尋, 古株 彰一郎, 松原 琢磨, 中富 満城, 浦田 真梨子, 自見 英治郎: NF- κ B 非古典的経路は内軟骨性骨形成を調節している. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

43) 古株 彰一郎, 中富 千尋, 松原 琢磨, 自見 英治郎: TLE3 による MyoD の転写活性制御機構. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

44) 松原 琢磨, 中富 千尋, 古株 彰一郎, 山本 照子, 自見 英治郎: 新規アクチン結合分子 PPP1r18 は破骨細胞のアクチンリング形成を阻害する. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

45) 浦田 真梨子, 松原 琢磨, 竹内 弘, 中富 千尋, 平田-土屋 志津, 古株 彰一郎, 張 皿, 北村 知昭, 自見 英治郎: Smad4 と NF- κ B/p65 の会合領域の同定. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

46) 坪井 亮仁, 安田 和真, 村松 祐也, 古株 彰一郎, 浦田 真梨子, 松原 琢磨, 中富 千尋, 自見 英治郎: ゲラニルゲラニオールは PPAR γ の発現を誘導し糖尿病治療薬 Rosiglitazone の効果を増強する. 第 23 回日本歯科医学総会, 福岡(10 月), 2016.

47) 木部 琴乃, 中富 満城, 片岡 真司, 豊野 孝, 瀬田 祐司: マウスの歯胚における Hey1 および Hey2 遺伝子発現の定量的解析. 第 58 回歯科基礎医学会, 札幌 (8 月), 2016.

48) 木部 琴乃, 中富 満城, 片岡 真司, 豊野 孝, 瀬田 祐司: マウスの歯胚における Hey1 および Hey2 遺伝子発現の定量的解析. 第 76 回九州歯科学会総会学術大会, 北九州 (5 月), 2016.

9 動物実験施設利用状況

動物実験施設利用者数

動物実験施設利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	8	8	6	8	7	10	4	9	6	8	1	0	75
歯周病学	3	4	0	0	0	0	0	0	0	4	15	6	32
口腔再建リハビリテーション学	4	2	8	4	7	6	6	5	2	1	4	4	53
解剖学	24	18	23	28	8	19	9	14	14	33	37	15	242
生理学	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
分子情報生化学	20	39	45	53	33	54	23	45	36	35	44	36	463
口腔応用薬理学		10	410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	420
口腔機能発達学	2	4	5	0	1	0	3	2	2	2	2	3	26
顎口腔機能矯正学	3	7	6	15	16	11	3	2	4	0	4	8	79
顎顔面外科学	12	15	15	20	19	23	22	19	15	7	6	3	176
口腔保健管理学	2	5	3	4	11	7	9	12	9	10	7	5	84
学生	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6
計	78	112	526	133	102	130	79	108	89	100	120	80	1657

再搬入飼育室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔応用薬理学	0	10	10	0	0	0	0	0	1	0	0	0	21
口腔保健管理学	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
計	0	10	10	0	0	0	0	0	1	0	0	0	23

10F小動物観察室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生理学	44	51	57	73	54	73	52	41	42	32	57	47	623
歯科侵襲制御学	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
顎口腔機能矯正学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
口腔再建リハビリテーション学	0	0	1	13	13	4	1	7	0	11	11	11	72
分子情報生化学	9	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	12
口腔保存治療学	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	5	7
計	53	52	59	87	67	77	53	51	43	43	68	63	716

11F小動物室2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔応用薬理学	0	0	1	3	0	0	1	1	2	1	2	3	14
口腔内科学	22	19	17	22	19	30	23	27	25	19	11	2	236
口腔機能発達学	3	2	7	7	3	3	3	1	1		2	5	37
口腔再建リハビリテーション学	2		2	12	4	0	0	7	9	9	1	6	52
顎顔面外科学	0	0	2	3	5	4	3	1	3	19	16	9	65
その他		1		2			1	1	1	0	0	2	8
計	27	22	29	49	31	37	31	38	41	48	32	27	412

実験室利用件数

第1実験手術室利用件数 0件

第2実験手術室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	2	1	1	1	1	2	2	2	1	2	0	0	15
計	2	1	1	1	1	2	2	2	1	2	0	0	15

BS実験室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
解剖学	3	0	2	7	3	2	1	1	3	10	10	1	43
顎顔面外科学	2	0	2	2	2	4	4	2	3	4	0	0	25
口腔保存治療学	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	7	0	4	9	5	6	5	3	6	14	10	1	70

SB実験室利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
口腔保存治療学	6	8	6	6	7	7	4	7	5	5	0	0	61
顎顔面外科学	4	6	8	12	8	2	4	4	1	0	3	1	53
歯周病学	2	4	0	0	0	0	0	0	0	3	15	6	30
学際教育推進ユニット	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	6
計	12	18	14	18	15	9	8	11	7	8	20	7	150

組み換え実験室

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
分子情報生化学	14	19	33	35	20	33	16	25	28	26	16	14	279
解剖学	8	3	5	3	0	3	2	5	1	7	6	0	43
顎口腔機能矯正学	0	3	4	9	12	9	2	1	2	0	2	5	49
口腔機能発達学	2	4	0	1	1	0	1	0	2	2	0	1	14
顎顔面外科学	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
学生	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	22	22	38	38	32	45	21	31	33	35	24	20	388

各分野での総飼育匹数

BS		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
解剖学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	2712	3317	3164	3192	3125	2721	2820	2877	2945	2875	2260	2425	34433	匹
顎顔面外科学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	0	334	日
	総飼育数	207	247	164	372	497	327	261	92	235	198	84	0	2684	匹
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	30	31	28	31	364	日
	総飼育数	600	620	500	222	192	456	526	480	496	496	448	554	5590	匹

SB-1飼育室		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
口腔再建リハビリテーション学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	149	120	93	263	525	608	487	392	227	245	330	170	3609	匹
解剖学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	108	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	93	1113	匹
学際教育推進ユニット	使用日数	9	0	0	31	1	0	0	0	0	0	0	0	41	日
	総飼育数	18	0	0	36	1	0	0	0	0	0	0	0	55	匹
歯周病学	使用日数	16	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	日
	総飼育数	160	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	235	匹

SB-2飼育室		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
顎顔面外科学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	409	429	603	837	742	728	516	386	277	217	260	248	5652	匹
口腔保存治療学	使用日数	30	31	30	31	31	30	11	30	31	31	0	0	286	日
	総飼育数	234	319	202	365	399	360	94	292	167	242	0	0	2674	匹
学際教育推進ユニット	使用日数	7	14	11	31	31	30	14	20	31	31	9	5	234	日
	総飼育数	14	66	28	56	105	70	66	78	117	67	28	21	716	匹
歯周病学	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	28	31	71	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91	672	830	1593	匹
口腔内科(顎顔面)	使用日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	31	日
	総飼育数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	124	124	匹

ラット		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
顎口腔機能矯正学	使用日数	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	日
	総飼育数	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	匹

組み換え飼育室		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
分子情報生化学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	7674	8479	7480	9538	10736	11054	12240	13609	9375	10698	9270	10935	121088	匹
解剖学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	日
	総飼育数	727	785	566	380	389	453	390	590	536	609	433	429	6287	匹
顎口腔機能矯正学	使用日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	30	364	日
	総飼育数	688	620	1289	1538	1388	1320	1398	1684	1418	1297	1248	1187	15075	匹

再搬入2飼育室		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
口腔応用薬理学(マウス)	使用日数	0	19	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	日
	総飼育数	0	957	1161	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2118	匹
" (モルモット)	使用日数	0	19	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	日
	総飼育数	0	146	219	0	0	0	0	0	0	0	0	0	365	匹

動物系統別購入数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
Wisterラット	90	61	103	119	98	107	76	101	31	78	80	9	953
SD ラット	0		0	0	0	0	0	0	0	19	22	0	41
SD ラット妊娠14日目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ddy マウス	1	82	27	4	4	4	2	6	79	0	6	5	220
C57 black 6/N マウス				1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
C57BL/6N マウス	10	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	14
C57BL/6Nマウス哺乳1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C57BL/6J マウス	8	4	0	12	24	0	14	6	0	12	0	4	84
C57BL/6、FVB/N、129/svj	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
BALB/c	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5
BALB/cA Jcl	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
KK-Ay/Ta マウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
KSN/slc ノドマウス	8	0	8	10	0	0	5	4	8	0	0	0	43
SAMR1/Ta マウス	0	0	0	0	3	2	3	0	0	0	0	3	11
SAMP1/Sku マウス	0	0	0	0	3	2	3	0	0	0	0	3	11
STOCK Tg(KRT14-cre)1Amc/j	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FVB-Tg(Collal-cre/ERT2)KA3Smac/J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B6.Cg-Tg(Collal-cre/ERT2)1Crm/J	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B6.129S7-Sre	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
RelB +/- マウス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
NF-KBLuc/GFP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
BKS. Cg-m+/m+/Jcl	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
BKS. Cg- +Leprdb/+Leprdb	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハートレイ モルモット	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
B6N.FVB-Tg(Actb-cre)2Mrt/CjDswJ	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
p65flox マウス	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Pax7 CreERT2/+ (長崎大学)	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3

10 年間運営についての総括

平成28年度の九州歯科大学の動物実験は、各動物実験責任者が作成した実験計画書の厳正な審査のもと、法令を遵守し、問題なく適正に行われたことを報告する。今年度も昨年度同様に、多くの研究者が利用し、数多くの業績が発表された。

九州歯科大学動物実験規程第11条では、動物実験等の実施に関し透明性を確保するため、定期的に自己点検・自己評価およびその検証を行なっている。本学では、国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学動物実験施設協議会が出した相互検証プログラムに従いながら、自己点検・自己評価を行っている。

平成 28 年度九州歯科大学動物実験委員会報告書

■2017 年 8 月発行

■発行：九州歯科大学 動物実験委員会委員長 北村 知昭

■編集：九州歯科大学 動物実験委員会

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1